

## ミスター・Kの英語教育ワンポイント指導ヒント

千葉県旭市教育委員会外国語教育アドバイザー  
千葉大学 教育学部 学校教員養成課程  
東京女子大学 現代教養学部 国際英語科 非常勤講師  
加瀬 政美

### 【第1号】 中学校向けバージョン

中学生になると、英語におけることばのルールである「文法」を明示的に教える必要も出てきます。生徒は、中学校の3年間で様々な文法ルールを学びます。英語教師は、その習得した文法ルールを使って、生徒に自分の考えや思いを英語で表現させたいものです。当然、生徒もそうなりたいと強く思っています。

さて、今回のポイントは、この意識と指導を体系的に指導者が教え、行うことで、学習者は格段と変容してきます。レッスンごとに出てくる文法に、そのレッスンだけで指導は終わりではなく、習得した文法事項を絡めて、学びの幅を広げることが指導者には必要です。そこで、今回のワンポイント指導のヒントは、これです。

**「助動詞と受動態は、セットで表現させていくと表現力がグーンと伸びます😊」**

助動詞は基本的に5つです。will, can, may, must, should、1年生の2学期、または後期にでてきます。受動態は、2年生の2学期、または後期にでてきます。そもそも人間の動作は、この二つで成り立っています。「する」と「される」です。

動詞を50知っているとする、助動詞と受動態をセットで表現させることで、 $50 \times 5 \times 2$ で500通りの表現が可能になるわけです。50をA、5をB、2をCとすると

例) A) use (～を使う)

B) You can use the dictionary.

C) The dictionary can be used.

この例を見ると、動詞を覚えて、助動詞を使って能動態と受動態で表現しているだけじゃないかと思われるかもしれませんが。そう感じてしまったら、思考はそこで止まります。

このA, B, Cをどのように使えるように仕組むか、コミュニケーションを行う目的や場面、状況をどのように設定していけば有効に働くのか、ここが指導者として指導力を高める上においても大事なところ。中学2年生の10月ぐらいから、このアプローチで指導していくと生徒が一気に表現力がついていきます。指導の時期、タイミングを見逃さないことが大事です。

では、あなたが教壇に立ったとしたら、生徒がワクワクするようにどのように授業の中で活動を仕組んでいきますか？ 考えてみましょう。